



横浜市立川和東小学校 学校便り

Create

「創造する子」【自分・仲間・学校・まち・夢を創る】

6月号

発行日
2019年
5月31日

～自分・仲間・学校・まち・夢を創る～
～「創造する子」未来への挑戦～

失敗が「あふれる」？ ～しっばいから学ぶこと～

横浜市立川和東小学校
校長 齋藤 稔

5月、「風薫る五月」「新緑の青葉しげれる五月」など、爽やかなイメージの5月ですが、令和元年の5月は、初夏ではなく、猛暑の5月となってしまいました。急な暑さのため、体調をこわす人も多くいて、休日は熱中症になった人がいたとのニュースもありました。

年号が令和になり、新しい時代の始まりでしたので、これからのことを考えましたが、同時に、今までの生き方も振り返りました。そう振り返ってみると、失敗したことばかりが思いだされて落ち込んでしまう自分があり、そこでまた、失敗したとってしまうのでした。

「失敗は成功のもと」「失敗は成功の母」ということわざがあります。失敗をしてもそれを次の取組に生かすことで、成功につながるのわかります。でも、「失敗」はやはりしたくないことだと思います。「失敗」とはどのようなことか？「自分が期待していた結果と違う結果になること。」という考えがあります。何かをやろうと行動をおこして、「こうなってほしい。」「こうなるんだ。」と頑張ったのに、思っていた結果と違ってしまうと、人は「失敗した。」と感じ、表現します。例えばサッカーやバスケットボールのシュートが決まらなかった時やもっと大事な、受験に不合格だった時など「失敗した。」となります。ところが、実は「思っていたとおりになって成功した。」という「成功体験」よりも、「うまくいかなかった。」「失敗した。」という「失敗体験」から学ぶことが多いような気がします。その考えは、たくさん失敗してたくさん学ぶことができるということにつながります。いわゆる、「挑戦する人」「チャレンジの人」が、たくさん学んで成長できる人だと思います。「挑戦をしない人」は、失敗はありませんが、成長もない人だと思います。失敗することから逃げて、失敗しない簡単なことだけに取り組んで成功したとしても、達成感ややりきった感は少なく、学ぶことも成長も、そして、次の成長につながることにならないと思います。たとえ失敗したとしても、やってみようと思った「挑戦の心」は必ずいつか成功につながるものだと感じています。成功を目指して取り組む中で、何度失敗したとしても、成功のための方法に挑戦することが、素晴らしいことだと思います。挑戦しないということは、失敗もしないので、成功には近づかないということになります。

「失敗」があふれているということは、「挑戦」があふれているということです。そして、失敗を何度繰り返しても成功するまで挑戦することが大切で、失敗が多かったけれど、これからも、どんどん挑戦をしていきたいと考えました。

先日、川崎市でおきた、登校途中で通学バスを待っていた児童が刺傷し命を落とすという痛ましい事件がありました。非常に残念なことです。児童の安全・安心確保のために、川和東小学校の学区では、たくさんの大人の目や声の見守りがあり、助かっています。感謝を申し上げます。日頃から、安全確保の意識を持ち続けることの大切さをあらためて確認いたしました。安全のための「大丈夫！」ということはないので、心配なこと、気になることがありましたら、児童へ声をかけていきたいと思えます。

6月は、時候の挨拶でも「初夏」となります。梅雨空の中でも夏に近づく季節です。宿泊学習も予定にあります。笑顔があふれる6月にしていきましょう！

学校便りは、本校ホームページでもご覧いただけます。あわせてご覧ください。
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawawahigashi/>